※令和４年度以降入学生用

学校番号	210

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学理系演習	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	新課程　ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

① 授業に必要なものは忘れてはいけない。隣の席の生徒に見せてもらうことは許可しない。
② 毎回の授業で課される宿題は，大切な授業の復習となるのでしっかりと取り組むこと。わからない問題については，クラス内で理解している者に尋ねて解決するのが一番良いが，教科担当者に質問に来るのも良い。内容を納得することが重要。
③ 授業内容の理解を助けるためには，授業前の予習が必要である。
④ 問題を解く際には，図や途中式など，解答に至るまでの経過を必ず明記する。
⑤ どうしても解らない問題（目安として，30 分考えても解答の方針がたたないもの）については，解答を見ても構わない。解答を読んで，理解し，もう一度何も見ないで自分で解いてみる。

2　学習の到達目標

(1) 数学の応用的な学習事項について、全体の復習にとどまらず、さらに内容を掘り下げ、理解を深める。
(2) 基礎的知識の習得と技能の習熟をはかり，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、応用力を養う。入試問題にも対応できるようにする。
(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。	事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている	数学の論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的根拠に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1学期	数学Ⅰ	・数と式 ・2 次関数 ・データの分析	a: 2 次関数のグラフや式を用いて、２次関数の最大値・最小値を求めることができる。また、２次関数の最大値・最小値とその求め方について理解している。 B: 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を、２次方程式の解に対応させて考察することができる。 c: 分散や相関係数を用いて、データを分析・整理することの有用性を認識しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
	数学A	・場合の数と確率 ・図形の性質 ・整数の性質	a: 確率の性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。また、確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率も求めることができる。 b: 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる c: 1 次不定方程式の解き方がいくつかあることに興味を持ち、それぞれの良さを認識しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
2学期	数学Ⅱ	・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・指数と対数 ・微分法と積分法	a: 高次方程式を１次方程式や２次方程式に帰着させることができる。 b: 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 C ： 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
3学期	数学B・数学C	・数列 ・ベクトル	a: 数学的帰納法の意味を理解し、それを用いて証明をすることができる。 b: 様々な漸化式で表された数列に対して、一般項を求めることができる。 c: 位置ベクトルの概念を理解し事象の考察に応用しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度